

教育プログラムの概要及び採択理由

機関名	三重大学	申請分野(系)	医療系
教育プログラムの名称	国際推薦制度による留学生教育の実質化		
主たる研究科・専攻名	医学系研究科生命医科学専攻		
(他の大学と共同申請する場合の大学名、研究科専攻名)			
取組実施担当者	(代表者) 駒田 美弘		

[教育プログラムの概要]

[目的]

国内外を問わず存在する医療と医学の地域的な偏在を是正することは、地域圏大学である三重大学が使命として取り組むべき課題である。これは、本学大学院の目的、「地域及び国際社会において指導性を発揮する人材を養成すること」や、「優れた研究成果を世界に発信することによって、人類の健康と福祉に貢献すること」とも合致する。本事業では、がんやマラリア、感染症など複雑な生体侵襲応答を伴う疾患について、総合的に教育研究する国際的水準の「生体侵襲ダイナミクス」教育プログラムを新たに開設する。本プログラムには、日本人学生と共に、アフリカ、中南米、アジアなど発展途上国の提携校からも国際推薦制度によって大学院生を受け入れる。提携校との間で長期的視野にたった人材養成を行い、もって国際的な医学と医療の向上に真に貢献することを目的とする。

[計画の概要]

発展途上国の大学院生に対しても、高いレベルの医科学教育を実施する。多様な生体侵襲応答を総合的に教育研究するプログラムとして大学院教育プログラム「生体侵襲ダイナミクス」を新設し、ここに日本人学生とともに発展途上国の留学生も受け入れる。がんやマラリア、その他の感染症などの生体侵襲と、そのワクチンなどによる治療は、発展途上国においても極めて関心の高い研究テーマである。本学には、これらについて高い実績を上げてきた研究グループが多くあり、それを大きく3つの教育研究グループ、(1)侵襲の分子・病態解析グループ、(2)侵襲に対する生体応答解析グループ、(3)侵襲制御開発グループにまとめ、本プログラムの実施にあたる。がんとマラリアの研究グループをコアとし、ここに、がん発生や炎症・免疫、ワクチン、バイオイメージング、バイオインフォマティクス、創薬等の一線の研究者(海外協力者を含む)を加えることで、学際的とも言える広範な生体侵襲ダイナミクスの総合的で国際的水準の教育研究が可能となる。

本プログラムの大きな特色は、国際推薦制度である。これは、発展途上国にある本学の提携校から、推薦によって大学院生を受け入れる制度で、学費免除とし経済的支援も実施する。大学院教育と並行して、提携校との国際交流の中でその教育研究環境の整備や、博士取得後の卒業生の研究・研修に関わることができ、育成した人材が母国で活躍できる長期的視野にたった人材養成が可能となる。

留学生の教育に当たっては、外国人専任教授を留学生担当として置き、留学生セミナーで不足する学力を補う。この他、「生体侵襲ダイナミクス」合同ラボミーティングを開催し、多様な分野の研究者からのアドバイスや批判を受ける場を提供する。また、「新研究プロジェクト」として大学院学生が自ら研究計画を提案・応募できる競争的研究助成制度を実施しており、自立した研究者を目指す自覚を早期から促す。さらに、「生体侵襲ダイナミクス」コアラボ(共同利用機器研究室)を利用したテクニカルセミナーを開催する。

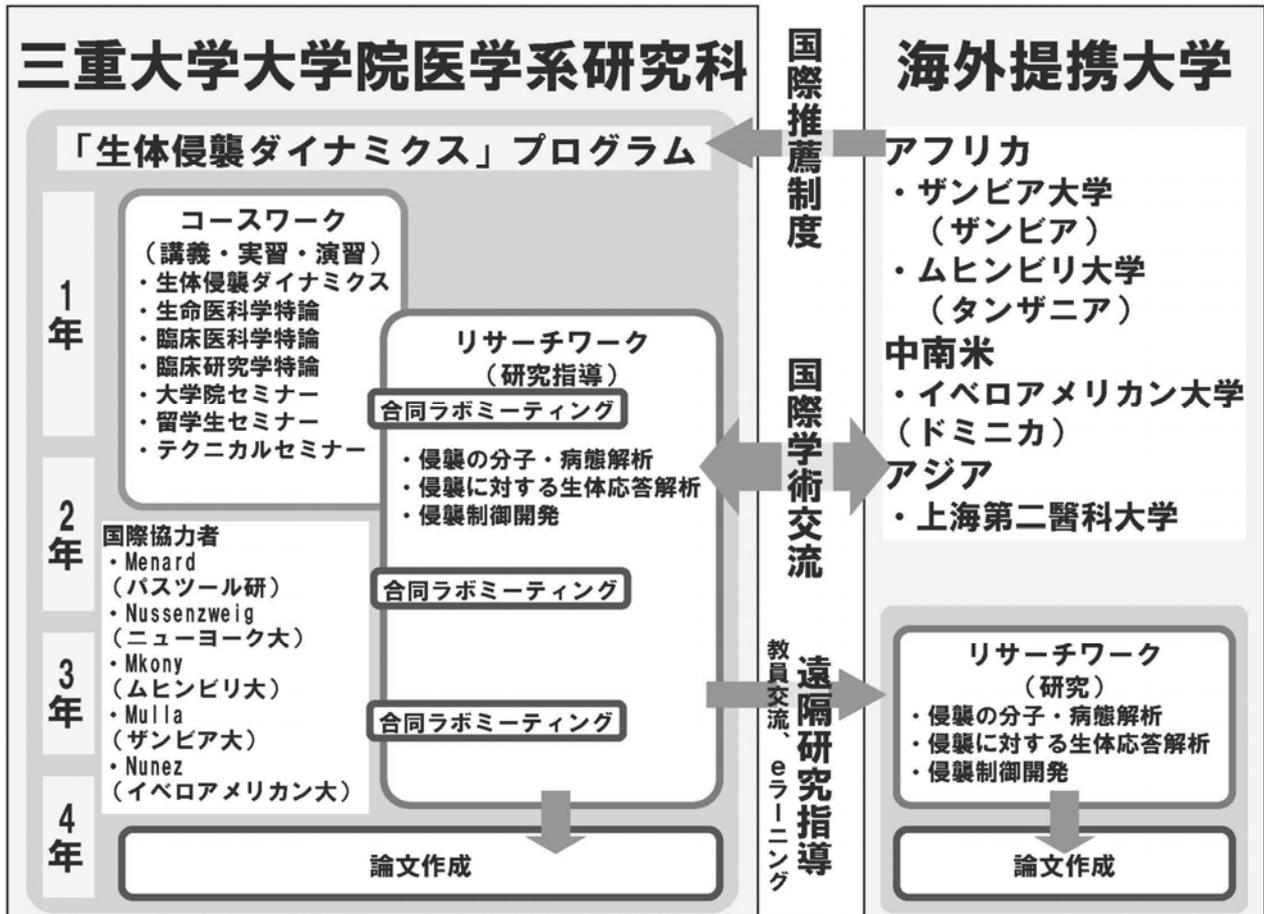
[計画を可能とする本学独自の基盤]

本学のがん、マラリア研究は国際的評価も高く、未来開拓事業、CRESTなど大型研究資金も獲得してきた。これに関連分野の第一線の研究者が集結することで、世界水準の教育研究基盤が確立できる。

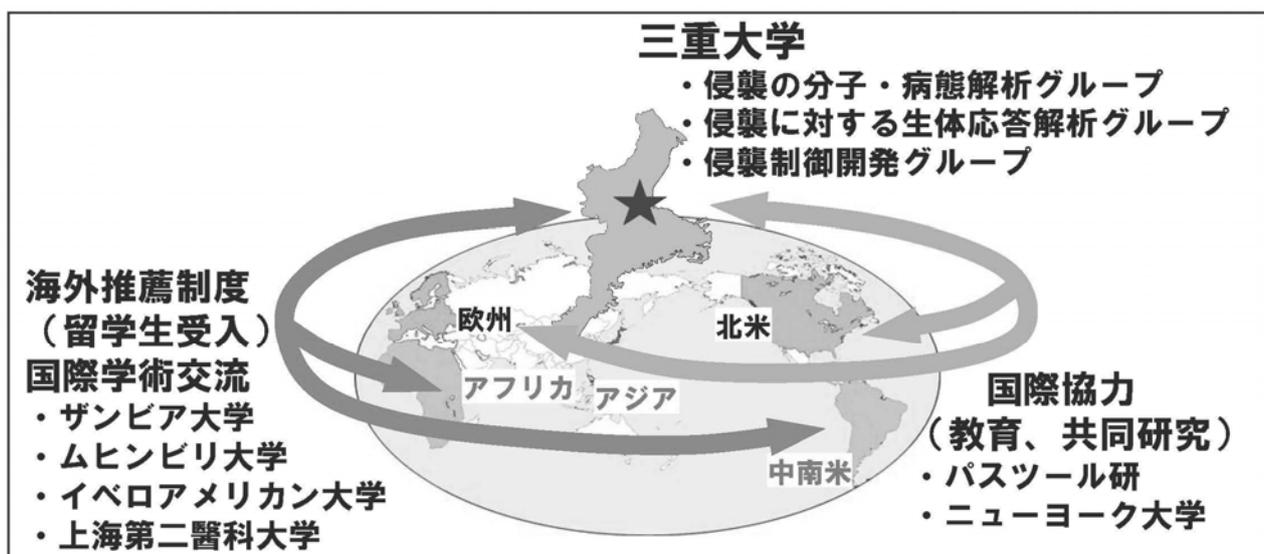
国際推薦制度を可能とした背景には、本学がアフリカや中南米諸国と築いてきた長い互恵的な国際提携の実績がある。20年以上にわたりJICA国際協力事業団に主体的に関り、大学院生も受け入れてきた。また、医学部学生の臨床実地教育として平成20年度は学生計31名をアフリカ、中南米に派遣した。

履修プロセスの概念図（履修指導及び研究指導のプロセスについて全体像と特徴がわかるように図示してください。）

「生体侵襲ダイナミクス」教育プログラムの概要



「生体侵襲ダイナミクス」教育プログラム実施組織の概要



三重大学：国際推薦制度による留学生教育の実質化

<採択理由>

大学院教育の実質化の面では、「地域及び国際社会において指導性を発揮する人材」の養成を目的として、その実現に向けて充実した実績のある教員組織が編成されている点は評価できる。

教育プログラムについては、日本人学生と共に発展途上国の留学生も受け入れ、がんやマラリア、感染症など複雑な生体侵襲応答を総合的に教育するため、コースワークとリサーチワークを整備しており、途上国の留学生も視野に入れた大学院教育の実質化に資する試みとして評価できる。また、大学独自の国際推薦制度を設け、発展途上国から留学生を積極的に受け入れて大学院教育の国際化を更に進展させようとする、これまでの大学の実績、特長を活かした提案であり成果が期待される。ただし、本教育プログラムの実施にあたっては、優秀な留学生の確保のための方策、及び留学生との相互刺激により日本人の大学院生にも教育成果が及ぶような体制上の工夫が望まれる。